

# 学校保健

葛山 友紀

共同研究者 森 慶恵 (金沢大学)

## 1. はじめに

平成 29 年度に告示された学習指導要領解説では、改訂の基本的な考え方として「総合的な学習の時間においては、探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する」と明記されている。また目標(3)には「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」と示されており、我が国が探究的な学習を通して子どもたちに生きる力を身につけさせ、主体的・協働的に社会を創造できる人材の育成を求めていることが分かる。

探究的な学習とは、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことであり、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていくものである<sup>1)</sup>。先述のように、この活動を行う上で重要なのは「主体的・協働的」という視点である。生徒が社会に出たときに直面する様々な問題のほとんどは、一人の力だけでは解決できないもの、協働することでよりよく解決できるものであり、その際に問題を自分のこととして受け止め、取り組もうとする主体性がなければ協働は成り立たないと言われている<sup>1)</sup>。

主体性・協働性を重視した活動は、これまでも各教科等で積極的に取り入れられている。例えば理科では実験を行う際は班となり、体育科ではバスケットボールやバレーボールを行う際はチームとなる。しかし、この班やチームが単なる人の集合体となっている場合がある。生徒同士の関わりが見られなかったり、沈黙している生徒がいたり、また一部の生徒のみで活動が進められ、活動に参加していない生徒が見られたりするなど、主体的・協働的な活動には結びついていないことが往々にしてある。

近年「心理的安全性」という言葉が注目されるようになってきた。心理的安全性とは、組織の中で自分の考えや気持ちを誰にでも安心して発言できる状態のことをいう。組織行動の研究者である Amy C. Edmondson が 1999 年に提唱した概念であり、「率直に発言したり懸念や疑問やアイデアを話したりすることによる対人関係のリスクを安心して取れる環境」と定義している<sup>2)</sup>。Google 社による研究プロジェクト「Project Aristotle」では、効果的なチーム条件の最重要因子に心理的安全性を挙げており<sup>3)</sup>、その研究結果はビジネス業界だけでなく、様々な分野で注目を集めている。また亀山らの研究によると、社会的地位が低いと自己認知している生徒ほど、観察・実験グループに対する心理的安全性が低くなりやすく、そのために理科授業において批判的議論を行うことが難しくなりやすい上に、対話的な学びが要求される観察・実験場面でストレス反応が高まりやすいことが示されている<sup>4)</sup>。これらの実態から、協働的な活動を充実させ、探究的な活動を発展させるためには、その基盤として心理的安全性が必要であることが分かる。

そこで学校保健では、令和 5 年度より、主体的・協働的な探究活動の基盤づくりとして、心理的安全性を高めるための授業開発を行っている。

## 2. 探究的な活動(創造デザイン科)と教科等との関わりについて

### (1) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

学校保健は、健康な生活に必要な知識や能力の育成を目指しており、現代的健康課題を解決する上で、重要な活動の一つである。

平成 29 年 3 月文部科学省「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」では、健康な生活を送るために、児童生徒等に必要な力として「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感（自尊感情）」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」を挙げている<sup>5)</sup>。

先述した通り、心理的安全性とは「対人関係のリスクを安心して取れる環境」のことであり、対人関係において安心できる環境をつくるためには、他者受容の態度が必要である。そのため、学校保健において他者と関わる力、特に他者受容に関する力の育成を図ることで、協働的な活動における心理的安全性が高まり、探究的な活動を促進することにつながるのではないかと考える。

## (2) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

他者との関わり（思いやり・信頼・友情等）については、道徳や学校活動、学校行事など、学習や体験を通して学んでいる。しかし、協働的な探究活動の基盤として求められる心理的安全性を高めるための具体的な手立てや方法についての知識・技能を育成する教育は十分とは言えず、生徒は心理的安全性の必要性について意識できていないのが現状である。未来を担う子どもたちが社会を牽引していくためには、心理的安全性の概念やそれを高めるための要点を知り、協働的な活動の場面で意識し活用できる資質・能力を身に付ける必要がある。

表 1 心理的安全性を確立するためのリーダーのツールキット

土台をつくる	参加を求める	生産的に対応する
<p><b>仕事をフレーミングする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>失敗、不確実性、相互依存を当たり前とし、率直な発言の必要性を明確にする</li> </ul> <p><b>目的を際立たせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>危機にさらされているものと、それがなぜ、誰にとって重要であるかを意識する</li> </ul>	<p>状況的謙虚さを示す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完璧でないことを認める</li> </ul> <p><b>探究的な質問をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よい質問をする</li> <li>集中して「聴く」手本を示す</li> </ul> <p><b>仕組みとプロセスを確立する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見を募るためのフォーラムを設ける</li> <li>ディスカッションのためのガイドラインを示す</li> </ul>	<p><b>感謝を表す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耳を傾ける</li> <li>受け入れ、感謝する</li> </ul> <p><b>失敗を恥ずかしいものではないとする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未来に目を向ける</li> <li>支援を申し出る</li> <li>次のステップについて話し合い、熟慮し、ブレインストーミングする</li> </ul> <p><b>明らかな違反に制裁措置をとる</b></p>
期待と意味の共有	発言が歓迎されるという確信	絶え間ない学習への方向づけ

心理的安全性を確立するリーダーのツールキットとして「土台づくり」「参加を求める」「生産的に対応する」の3つのカテゴリーが示されている（表 1）<sup>2)</sup>。本研究では、生徒一人一人がカテゴリー内容を意識することで心理的安全性の理解が促され、誰もがリーダーとしての資質・能力を身につけることができると考えている。

昨年度の研究では、上記のカテゴリーから他者受容と特に関係が深いと考える「仕事をフレーミングする」「探究的な質問をする」「感謝を表す」の3点について取り上げ、中学2年生を対象に「他者受容の意識を高める授業」と「他者の意見を引き出すコミュニケーションスキルを身につける授

業」を行った。授業後にアンケート調査を分析した結果、「心理的安全性尺度」と他者理解尺度における「他者受容度」「他者分析欲求」の得点が有意に高くなり、授業に一定の成果があったことが示唆された。

しかし、「他者受容の意識を高める授業」では、生徒は話し合いの動画視聴をもとに心理的安全性を低くする考えや発言について考察したため、発言できない生徒の心理状態を考えるまでには至らなかった。心理的安全性の低い話し合いを体験し、生徒一人一人がそこで感じたことを活動の土台とすることで、発言者が抱える不安を認識しやすくなり、その認識が他者受容の意識や態度の育成に効果的に働くと考えられる。また、「他者の意見を引き出すコミュニケーションスキルを身につける授業」では、体験活動の時間を十分確保できなかったため、スキルの向上を図ることができず課題が残った。

よって本年度は、上記の活動の時間を確保し、心理的安全性を高める資質・能力の育成を目指す。

### 3. 参考文献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編
- 2) エイミー・C・エドモンドソン 訳野津智子：恐れのない組織「心理的安全性」学習・イノベーション・成長をもたらす，英治出版（2021）
- 3) Google re:Work ：「効果的なチームとは何か」を知る  
<https://rework.withgoogle.com/jp/guides/understanding-team-effectiveness/#introduction>
- 4) 亀田晃和・原田勇希・草場実：学級内の社会的地位と実験グループに対する心理的安全性が理科授業における批判的議論とストレス反応に及ぼす影響，理科教育学研究 Vol.62 No1（2021）
- 5) 文部科学省：現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～（2019）

# 学校保健 学習指導案

日 時：令和6年11月23日（土）

指導者：葛山 友紀

場 所：2年4組教室

## 1 単元名 心理的安全性を高めよう

## 2 単元目標

- ・心理的安全性について理解を深めるとともに、心理的安全性を高めることができるようにする。
- ・心理的安全性について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- ・心理的安全性について関心を持ち、学習活動に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①心理的安全性を高めるためには、他者の意見を受け入れようとする気持ちと態度が必要であり、そのためには自分が陥りやすいバイアス（思い込み）を知ること、考え方・感じ方は経験が土台となっており、人それぞれ違うという意識を持つことが大切であるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②心理的安全性を高めるためのコミュニケーションスキルとして、探究的な質問をすること、感謝を表すこと、非言語的コミュニケーションを大切にすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	①心理的安全性が低くなる要因について、ワークシートに記述したり、他者と話し合ったりしている。 ②心理的安全性が高い話し合いをする場面で、習得した知識を活用し、適切な言葉や態度を選択している。	①心理的安全性について、課題の解決に向けての学習活動に自主的に取り組もうとしている。

## 4 指導に当たって

### (1) 教材観

心理的安全性とは、組織の中で自分の考えや気持ちを誰にでも安心して発言できる状態のことをいう。組織行動の研究者である Amy C. Edmondson が 1999 年に提唱した概念であり、「率直に発言したり懸念や疑問やアイデアを話したりすることによる対人関係のリスクを安心して取れる環境」と定義している。Google 社による研究プロジェクト「Project Aristotle」では、効果的なチーム条件の最重要因子に心理的安全性を挙げており、その研究結果はビジネス業界だけでなく、様々な分野で注目を集めている。本単元では、心理的安全性を高めるための方法やコミュニケーションスキルについて取り上げ、他者と協働的に関わるための資質・能力の育成を図りたい。

### (2) 生徒観

主体性・協働性を重視した活動は、これまでも各教科等で積極的に取り入れられている。例えば理

科では実験を行う際は班となり、体育科ではバスケットボールやバレーボールを行う際はチームとなる。しかし、この班やチームが単なる人の集合体となっている場合がある。生徒同士の関わりが見られなかったり、沈黙している生徒がいたり、また一部の生徒のみで活動が進められ活動に参加していない生徒が見られたりするなど、主体的・協働的な活動には結びついていないことが往々にしてある。

本単元をきっかけに、創造デザイン科をはじめ、その他の教科等においても、生徒一人一人が心理的安全性を高め、協働的な活動が充実するよう指導をしていきたい。

(3) 指導観

心理的安全性を高めるためには、他者受容の意識や態度が必要である。他者受容を阻害していると考えられる「思い込み (バイアス)」に関することや、「考え方や感じ方は人それぞれ違う」ことについて理解を促すため、事例を用いたりイメージを可視化したりして、生徒一人一人が実感し理解できるよう指導の工夫を図りたい。心理的安全性を高めるためのコミュニケーションスキルについては、体験活動の時間を確保し、日常生活での活用につなげたい。

5 指導と評価の計画 (2 時間)

		学習内容・ねらい (■) 主な活動等 (丸数字)	知	思	態	評価方法
1	1	<b>■</b> 心理的安全性を高める方法を理解する。 ①心理的安全性の概念を知る。 ②心理的安全性が低くなる要因を考える。 ③心理的安全性を高めるための方法を知る。	①	①		観察・ワークシート
	2 本 時	<b>■</b> 心理的安全性を高めるコミュニケーションスキルを身につける。 ①事例を通して、心理的安全性を高めるコミュニケーションのポイントを知る。 ②心理的安全性が高い話し合いのストーリーを考える。 ③グループごとにストーリーの内容を演じる。	②	②	①	観察・ワークシート

※主体的に学習に取り組む態度の評価は内容のまとめり全体を通して総括する。

6 本時の学習（第1次中2時）

- (1) 目標 ○心理的安全性を高めるコミュニケーションスキルについて理解できるようにする。  
 ○心理的安全性が高い話し合いをする場面で、習得した知識を活用し、適切な言葉や態度を選択できるようにする
- (2) 準備・資料等 パソコン・スライド資料・ワークシート・iPad
- (3) 展開

○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点など 【評価規準】(評価方法)	時間
<p>○前時の復習を行う。</p> <p>・下記の内容について確認する。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「心理的安全性を高めるための方法」</p> <p>①自分が陥りやすいバイアスを知り、他者の意見を大切にする</p> <p>②人それぞれ、考え方・感じ方は違うことを意識し、他者の意見を大切にする</p> </div>	<p>・心理的安全性の概念を踏まえながら、前時の学習内容を押さえる。</p>	3
<p>○学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題：心理的安全性を高めるコミュニケーションスキルを身につけよう</p> </div>		1
<p>○心理的安全性の高いコミュニケーションを理解する。</p> <p>・心理的安全性の高い話し合いの動画を視聴する。</p> <p>・教師の説明を通して、心理的安全性を高めるコミュニケーションのポイントを知る。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を大切にする（前回の学び）</li> <li>・探究的な質問をする</li> <li>・感謝を表す</li> </ul> </div> <p>・上記のポイント以外にも、非言語的コミュニケーションが大切であることを知る。</p>	<p>・動画内容をプリントにし、振りかえられるようにする。またポイント部分に下線を引き、気づきを促す。</p>	6
<p>○心理的安全性が高い話し合いについて考える。</p> <p>・動画で前時の心理的安全性が低い話し合いの事例を振り返る。</p> <p>・上記のコミュニケーションのポイントを踏まえて、前時の心理的安全性が低い話し合いの事例を、心理的安全性が高いものになるよう、独自のストーリーを個人で考え、ワークシートに記入する。</p> <p>・班ごとに考えを伝え合う。</p>	<p>【知識・技能②】(観察・ワークシート)</p> <p>【思考・判断・表現②】(観察・ワークシート)</p>	15
<p>○心理的安全性が高いコミュニケーションを実践する。</p> <p>・班ごとにストーリーの内容を演じる。</p>		20
<p>○まとめ・振り返りをする。</p>		5